

新

令和元年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

希望の糸は、
本当の真実は、
自分で見つけるもの。

新 月刊書店

第24話 R01.07.08(月)

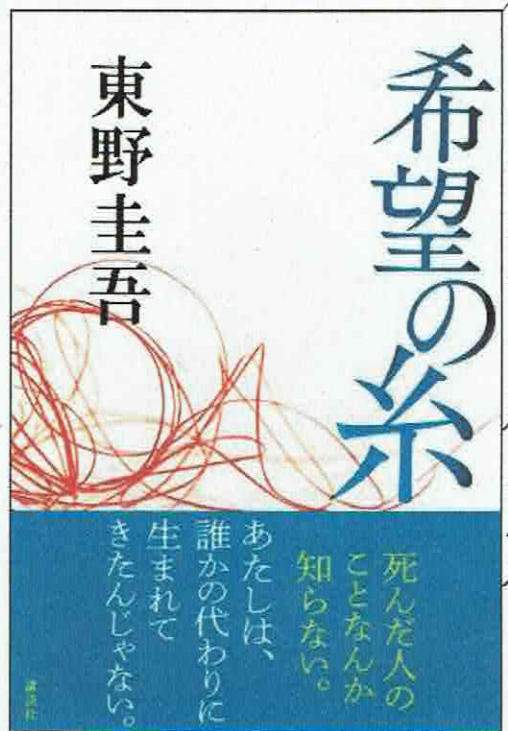
「本当の真実は、
自分で見つけるもの。」

★今回、紹介する本は、『希望の糸』（著/東野圭吾、出版/講談社）です。

附中図書館でも大人気の作家・東野圭吾さんの最新作。令和初の書き下ろしです。しかも、『新参者』の加賀恭一郎の従弟である松宮脩平が主人公（ドラマでは、溝端淳平が演じていますね。）。だから、加賀も登場します。

ある喫茶店の女性店主が刺殺されるという事件を軸にして、さまざまな人物の境遇や切実な思いが浮かび上がります。一見何の関係もなさそうなことが、一気に結びつなげていく展開は見事です。

しかも、主人公の松宮の過去まで明らかになり、加賀シリーズに新たな深みを与えてくれる作品です。家族や血のつながりとは何か。生きていくこととは何か。さまざまなことを深く考えさせてくれる1冊。キーワードは「巡り会い」。そして、タイトルの意味がしみじみと迫るラストが素晴らしいです。映像化あるのかな。



中巻までは若干の伏線が、ラストで一気に明らかになる。

ただ感謝していただけてです。

長い糸が切れていなくなったことに

(p.345)P」

人々の心を
こまやかに描くシリーズに
ふさわしい最新作!!

自分にしかできないこと、
自分じゃなきゃダメだって
ことが、ま、とあるんだと
思います。

最後に言ってくれた
言葉だけでいい。

(p.336)P」